

Title	伝統的玩具会社A社の問題と今後の改善
Sub Title	
Author	王盈盈(Ou, Yunyun) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1577号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1577">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1577</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	小 野 研究会	学籍番号	89928181	氏名	王 盈盈
(論文題名)					
<p style="text-align: center;">伝統的玩具会社 A 社の問題と今後の改善</p>					
(内容の要旨)					
<p>台湾玩具業界は、1987 年頃まで、安い人件費と勤勉な労働力、政府の支援、及び関連産業の発展などにより、世界第 2 位の輸出供給国になった。しかし、これ以後、国内外の環境変化の影響を受け、競争力が徐々に低下してきている。</p> <p>国内では、生産コストの高騰、第 2 次産業の人材不足など生産環境が悪化した。一方、中国、フィリピン等の競争相手の品質改善により競争力を強化し、また、市場の面では、伝統な玩具よりも、教育・ハイテク型玩具の需要が高まってきている。その結果、台湾の玩具産業の規模が縮小し、玩具生産量の多くは香港、中国等の競争他国に奪われた。本論文では、伝統的な中小玩具会社である A 社の事例研究を通じて、台湾の中小企業が生き残る道考えた。</p> <p>研究の枠組としては、台湾の玩具業界の特徴と環境変化、日本をはじめとする玩具市場の状況を整理した上で、A 社の競争優位性と弱点を分析した。そして、研究のフレームワークとして、小野桂之介・根来龍之両教授が「生産企業の経営」で述べている付加価値増大のアプローチ、競争要因分析、重点型戦略という競争戦略理論を活用し、改善のアクションプランを提言している。</p> <p>台湾と競争他国の生産環境、世界玩具市場の現状を調査した結果、台湾は既に労働集約、低付加価値の玩具生産に適合ではないと判明した。そうした環境の中で、各改善案を分析した結果、A 社はこのような製品を、生産コストが低く、生産環境も比較的良い海外に移転すべきと判断した。</p> <p>いくつか賃金水準が安い海外移転地について、分析した。結果としては、中国は将来の市場規模が大きいこと、中国のなかで、深センがインフラ、すそ野産業、労働者の質と量、言葉の問題、A 社がコントロールしやすいなどの点で、他の移転地より優れたと判断した。よって、中国の深センに移転することにより、生産コストを大幅に削減でき、しかも、今まで A 社の強みである品質競争要因を一定程度に維持するという前提を満たせると判断した。</p> <p>しかし、この改善案は A 社の経営が赤字になる時期を遅らせるだけで、長期的な解決にならず、A 社は、より積極的な行動が必要である。それは、A 社が深センへの生産移転で生み出す黒字を活用し、より付加価値のある新製品を開発しなければならないという結論を出した。</p>					